



ENEOS

吸収源対策としてのブルーカーボンの拡大に向けたシンポジウム

ENEOSグループの ブルーカーボンに関する取組み

2026年1月22日

ENEOS株式会社
カーボンニュートラル戦略部長
根本 裕一

ENEOS株式会社

ENEOSホールディングス・ENEOSの概要



ENEOSホールディングス

所在地： 東京都千代田区大手町一丁目1番2号
代表取締役 社長執行役員： 宮田 知秀

連結売上高： **13兆8,567億円**

連結従業員数： **43,683人**

2023年度実績



ENEOS

石油製品（ガソリン・灯油・潤滑油等）の精製・販売
ガスの輸入販売・石油化学製品の製造販売・電気・水素の供給



事業開始： **1888年**

国内第1位

国内燃料販売シェア：約**50%**

国内第1位

給油所数：約**12,000カ所超**

国内第1位

原油処理能力：約**164万バレル/日**

国内生産製造拠点：**11カ所**

アジア
第1位

パラキシレン
供給能力(外販量)：約**301万トン/年**

2023年度実績

ENEOS Xplora

石油、天然ガス等の探鉱および開発 など

ENEOSマテリアル

合成ゴム・機能材商品の製造・販売 など

ENEOS Power

電気・都市ガス事業 など

ENEOS リニューアブル・エナジー

再生可能エネルギー事業 など

第4次中期経営計画とカーボンニュートラル基本計画の公表

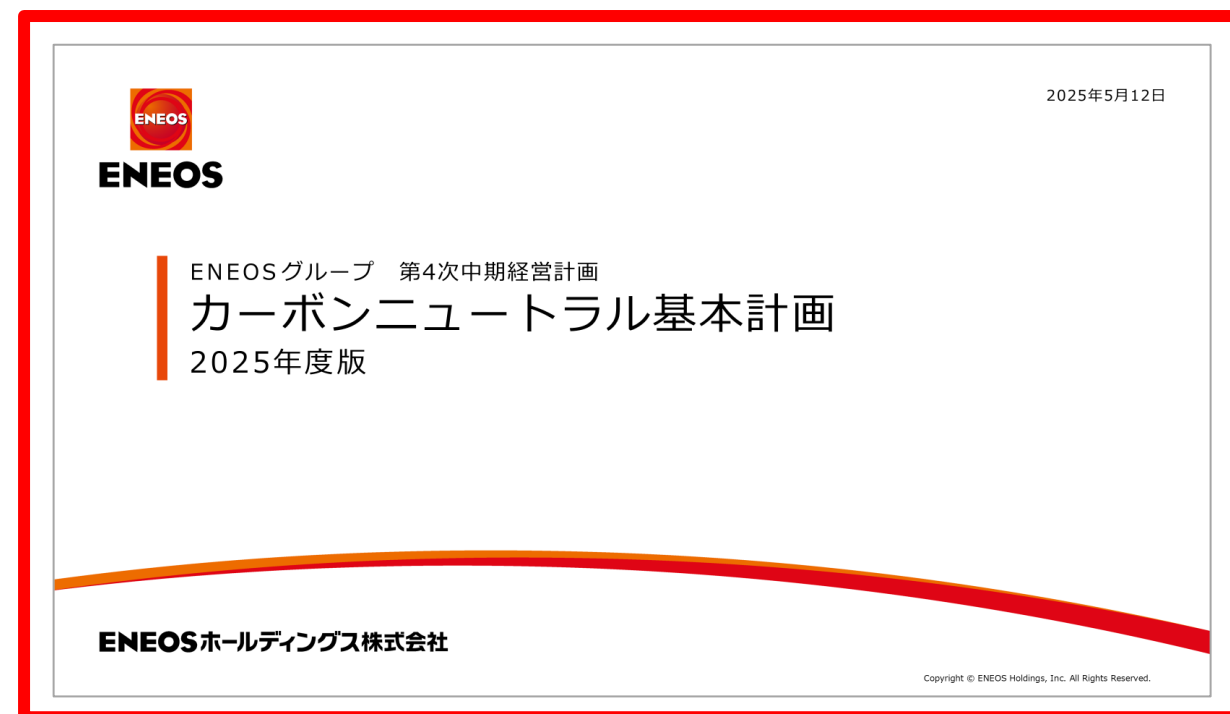
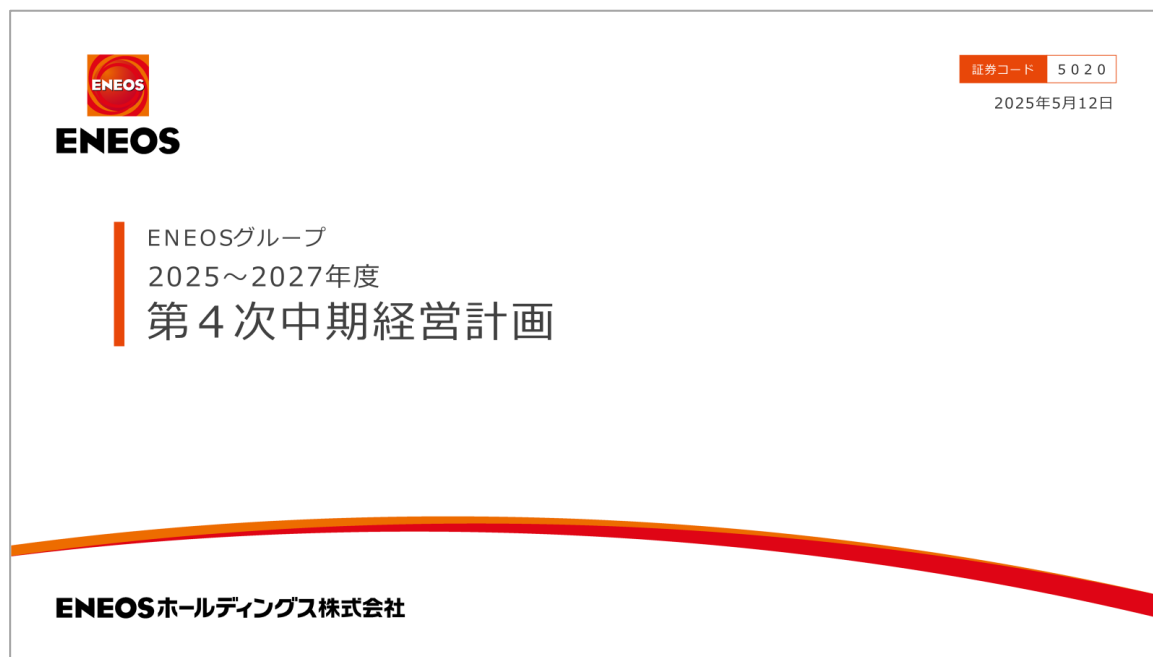
カーボンニュートラル基本計画の策定

2025年5月12日：第4次中期経営計画に合わせ、「**カーボンニュートラル基本計画2025年度版**」を公表

「ENEOS カーボンニュートラル」
で検索ください。



eneos カーボンニュートラル



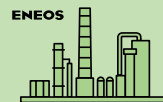
カーボンニュートラル社会実現に向けた取り組み

カーボンニュートラル社会実現に向けた取り組み方針

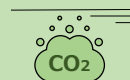
当社の
温室効果ガス
排出削減※1
(Scope1+2)



温室効果ガスの排出削減



CO₂の人為的固定化による削減



CO₂の自然吸収増加



エネルギー・素材のトランジション



サーキュラーエコノミーの推進



ENEOSグループの施策

- (需要に応じた) 適正な原油処理
- 製造・事業の排出削減 (省エネ・燃料転換・再生可能エネルギー利用等)
- カーボンクレジット等※2の活用
- CCS (CO₂の回収・貯留)
(CCSを活用したBECCS※3・DACCS※4等の新規手法を含む)
- 森林吸収等※5によるカーボンクレジット創出
- 化石燃料・製品の低炭素化 (LNG・削減貢献商品)
- 再生可能エネルギーの拡大 (太陽光・風力)
- バイオマス等資源の利活用 (バイオ燃料・素材)
- 化石燃料の脱炭素化 (他社向けCCS・CDR※6)
- 水素の利活用 (水素・合成燃料※7)
- 資源循環の推進
- 素材の省資源化・環境貢献の価値化 等

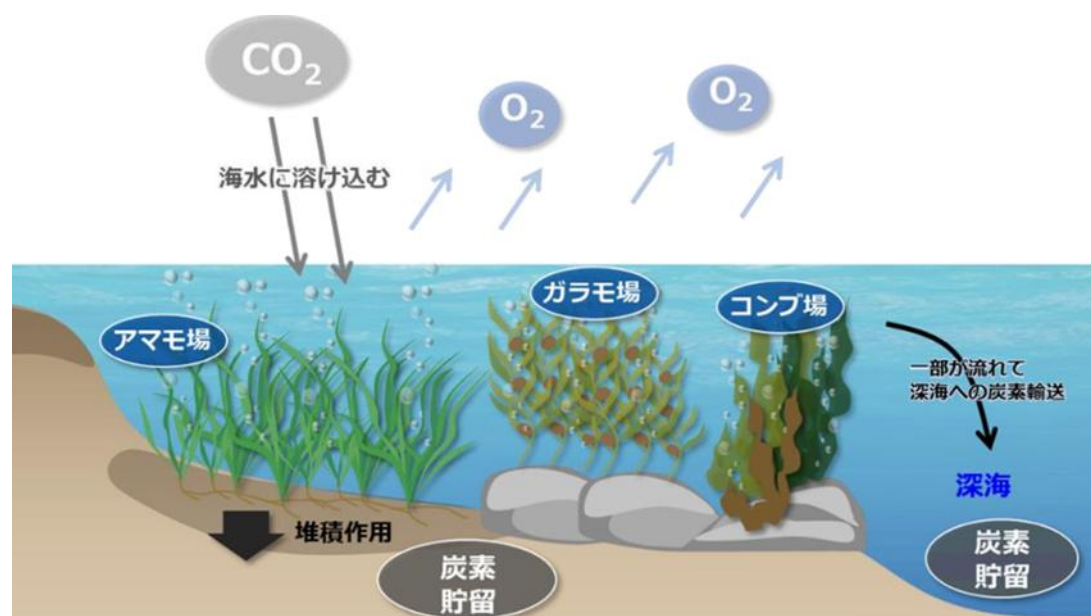
※1 削減・吸収除去双方の取り組みを含む。吸収除去はバリューチェーン外の緩和活動として実施。クレジット創出を通じて自社排出のオフセットにも適用 ※2 非化石証書等を含む

※3 バイオマス発電時に排出されたCO₂の回収・貯留 ※4 大気からのCO₂の直接回収・貯留 ※5 植林・森林管理に加え、**ブルーカーボン**・水田メタン抑制等の自然吸収・排出削減手法を含む ※6 CO₂の除去 ※7 バイオ由来を含む

ブルーカーボンへの期待

- ・ブルーカーボンは島国である日本との親和性が高く、質の高い吸収系クレジット創出の可能性を秘めている
- ・水産資源の保護や地域振興等のコベネフィットの期待も大きく、高いポテンシャルが期待される

ブルーカーボンのポテンシャル



ブルーカーボンによる炭素貯留イメージ

1 炭素貯留ポテンシャル

- ・ブルーカーボンは単位面積あたりの貯留ポテンシャルが大きく、本質的な炭素貯留ポテンシャルは大きい

2 質の高いカーボンクレジットの創出

- ・日本の地理的環境を生かし、数百年単位での長期炭素貯留が期待できる質の高い吸収系クレジット創出が可能

3 生態系や水産資源の保護・回復の推進に貢献

- ・ブルーカーボンは、防波効果や水質浄化等の多面的機能を有し、水産資源の回復、更により豊かな海洋環境の醸成を目指す。

4 事業展開を通じた地域振興

- ・ブルーカーボンの取り組みを通じたハード・ソフト面での新規投資により、水産業等の地域振興への貢献を目指す。

ブルーカーボンに関するENEOSの取り組み概要

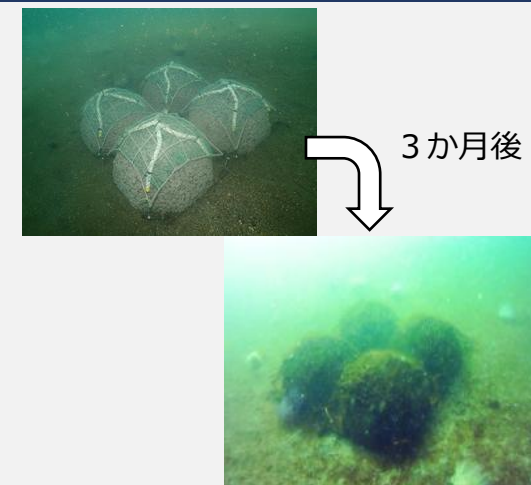
ブルーカーボン実現に向けた取り組み

ブルーカーボンにおける当社の取り組み

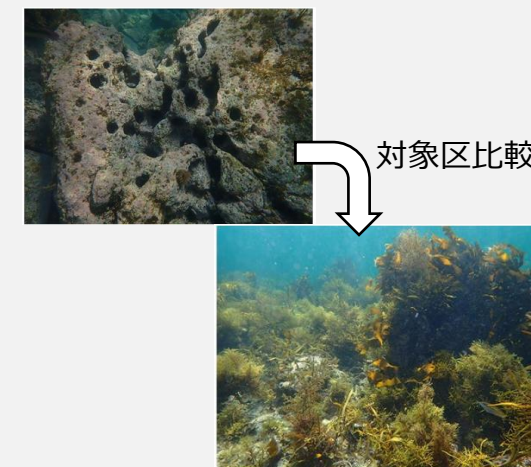
- ・ **ブルーカーボンに関連した2社のベンチャー企業へ出資**
UrchinomicsBV様（オランダ、2021年3月） / UMITRON PTE.LTD様(シンガポール、2022年2月)
- ・ **環境省令和4年度「令和の里海づくり」モデル事業に選定**（2022年9月）
企業所有護岸における藻場の創出と、情報発信を通じた地域住民と地元の海とのつながりを構築
- ・ **沿岸域でのブルーカーボンの取り組みにより、Jブルークレジット創出**（2023年3月）
山口・大分の2か所（2.6t-CO₂・2022年度実績）
- ・ **「大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス（MOBA）」に参画**（2024年5月）
ブルーカーボン生態系の創出等の取組の情報発信・普及啓発・理解促進を一元的に展開

大規模化に向けた取り組み

- ・ **海藻を利用したブルーカーボンの大規模化を目指し、産官学連携により検討開始**（2023年12月）
産業技術総合研究所、港湾空港技術研究所（PARI）、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、東京大学とともに検討を開始
- ・ **「令和7年度海洋資源を活用したCCUSに関する調査検討委託業務」の受託**（2025年5月）
PARI、JAMSTECと連携し、海藻類の挙動把握、影響評価のための調査、モデル検討等を実施
- ・ **北海道奥尻町との「ブルーカーボンを活用した脱炭素社会の実現」に向けた連携協定**（2025年6月）
- ・ **北海道立総合研究機構とのブルーカーボンに関する調査・養殖試験の開始**（2025年11月）



【令和の里海づくり：藻場造成の様子】



【Jブルークレジット創出：磯焼け対策】

ブルーカーボンに関するENEOSの取り組み①「産官学連携」

- 大規模ブルーカーボンの実現性を検証するため、産学官連携による検討を開始（2023年12月）
- ブルーカーボンはCO₂の貯留効率が高く、国土の限られた日本において有力なCO₂削減対策となる可能性がある

取り組み概要

検討目的と内容

- ブルーカーボンのメカニズムを広域で適用し人が積極的に関与することで、大規模ブルーカーボン創出を目指す。
- ブルーカーボンの大規模な隔離・貯留を中心とした「ブルーカーボン生態系のCO₂吸収源としての利活用」に関する検討。

連携先



代表研究者

港湾空港技術研究所
桑江 朝比呂 氏
海洋研究開発機構
川口 慎介 氏
産業技術総合研究所
鈴木 昌弘 氏
東京大学
多部田 茂 氏

NEWS RELEASE



2023年12月12日

各 位

ENEOS株式会社

産官学連携による大規模ブルーカーボン創出の検討開始について

ENEOS株式会社（社長：齊藤 猛、以下、「ENEOS」）は、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所（以下「PARI」）、国立研究開発法人 海洋研究開発機構（以下「JAMSTEC」）、国立研究開発法人 産業技術総合研究所（以下「産総研」）、国立大学法人 東京大学（以下「東大」）とブルーカーボンの大規模創出に向けた検討を開始しましたので、お知らせいたします。

海洋生態系に取り込まれた炭素「ブルーカーボン」は、CO₂の吸収源対策の新しい選択肢として期待されています。大気中のCO₂は、海藻・海草などのブルーカーボン生態系の光合成により取り込まれ、海底に堆積したりや海洋中深層に分解されながらも長期間留まることによって、ブルーカーボンとして大気から隔離されます。このメカニズムを広域で適用し人が積極的に関与することで、脱炭素社会の実現に向けた100万t超の大規模ブルーカーボン創出を目指します。

当社とPARI、JAMSTEC、産総研、東大はそれぞれの知見を結集しブルーカーボンの大規模な隔離・貯留を中心とした「ブルーカーボン生態系のCO₂吸収源としての利活用」に関する検討を行います。

ブルーカーボンに関するENEOSの取り組み②「環境省委託事業の受託」

- 環境省の「令和7年度海洋資源を活用したCCUSに関する調査検討業務」を海洋研究開発機構（JAMSTEC）・港湾空港技術研究所（PARI）と共同で受託（2025年5月）
- 深海における海藻類の挙動把握や炭素貯留・影響評価についてのシミュレーションモデルを使った検討を実施する

取り組み概要

調査目的と内容

<目的>

深海域での藻類の挙動、周辺環境への影響、生態系メカニズムを把握し、ブルーカーボンを活用したCCUSの拡大とCO2削減につなげること。

<内容>

- 深海域での藻類の挙動把握
- 深海域周辺環境への影響評価
- 炭素貯留量の把握及び影響評価のためのモデル検討

共同実施者



調査で使用する船舶

深海潜水調査船支援母船「よこすか」



©JAMSTEC

有人潜水調査船「しんかい6500」



©JAMSTEC

実施者の役割

ENEOS :

ブルーカーボンの調査・検討を全体総括として推進

JAMSTEC :

海洋の総合的な研究開発機関として、深海調査を担当

PARI :

ブルーカーボンおよび生態系研究のシミュレーションモデルを活用した分析を担当

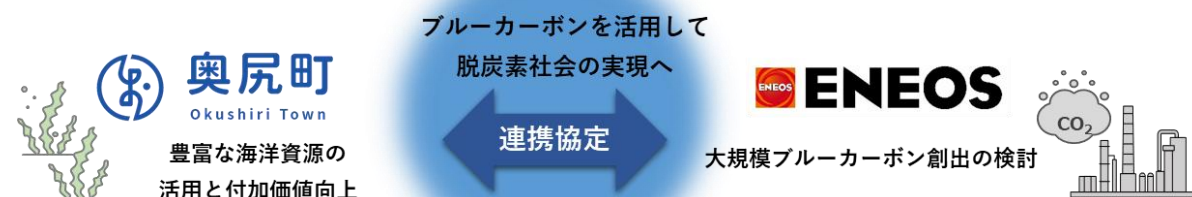
ブルーカーボンに関するENEOSの取り組み③「奥尻町との連携」

- ENEOSと北海道奥尻町は、奥尻町周辺海域の豊富な海洋資源を活かし、ブルーカーボンの創出・推進を加速するため、「ブルーカーボンを活用した脱炭素社会の実現」に向けた連携協定を締結（2025年6月）

取り組み概要

検討目的と内容

- CO₂吸収源としての期待が大きいブルーカーボンの取組実現を目指し、脱炭素社会の実現に貢献するブルーカーボンの創出・推進に向けて取組む。
- ENEOSはブルーカーボン推進に向けた検討と実証試験をリードし、奥尻町は漁業者をはじめとした関係者と連携・協力を実施する。
- 両者の知見を結集し、大規模なブルーカーボン創出に向けた検討を推進する。



北海道奥尻町



連携協定調印式（2025年6月19日）

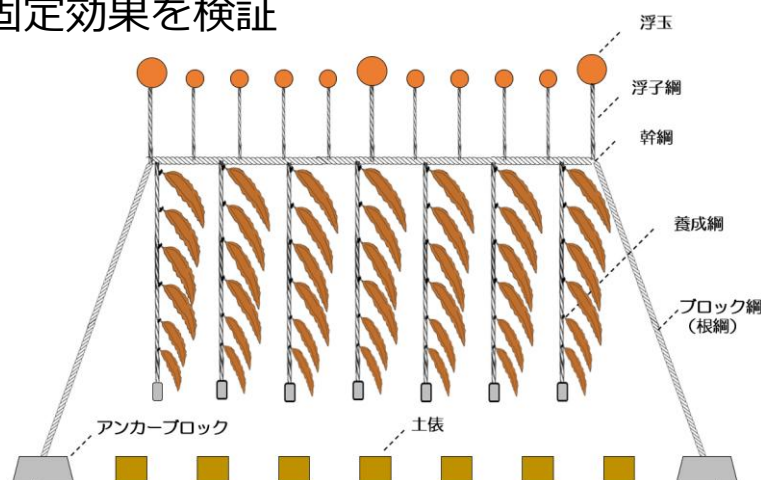
ブルーカーボンに関するENEOSの取り組み④「養殖試験の実施」

- ENEOSと北海道立総合研究機構は、大規模ブルーカーボン創出に向けた検証を目的とし、北海道周辺海域にて海藻類を対象とした調査および養殖試験を開始（2025年11月～）

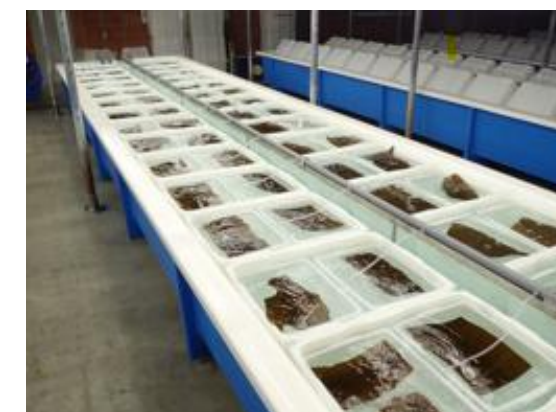
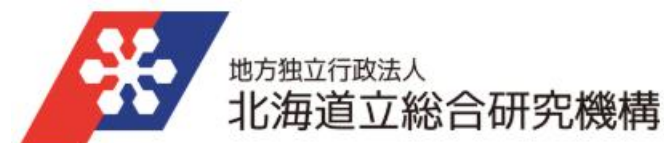
取り組み概要

検討目的と内容

- 北海道周辺海域に生育する海藻類を対象にその特性や生態について調査し、海藻類の成長に適した育成環境や効果的な育成手法に関する実証を進め、ブルーカーボンとしてのCO₂吸収・固定効果を検証



養殖構造のイメージ図



養殖試験のイメージ